

千葉県が発生農場（２例目）に係る疫学調査チームの調査結果概要
（平成23年３月１７日実施）

３月１７日に実施した現地調査の結果、以下のことを確認した。

１ 発生農場の周辺環境

- ① 発生農場はゴルフ場と水田がある丘陵地域に立地し、畑と住宅地に囲まれている。
- ② 農場の南東約２ｋｍの距離に公園の池があり、カモ類が約５０羽確認された。

２ 管理者

- ① 農場へ入場する際は専用の作業着を着用し、鶏舎毎に長靴を履き替えていたが、踏込消毒槽は設置していなかった。
- ② 管理者に最近の海外への渡航歴はなく、野鳥の飛来地を訪れたこともなかった。

３ 鶏舎の飼養衛生管理

- ① 農場の入口及び鶏舎の入口に消石灰を散布していた。また、農場の入口から約５ｍの位置にロープを張り、関係者以外の立入を制限していた。
- ② 発生農場の飼料タンクは各鶏舎ごとに２基設置され、タンク上部に蓋がされていた。
- ③ 管理者によると、飼料運搬車両は、農場の入口で噴霧消毒を実施しているとのことであった。
- ④ 鶏糞は、出荷後に処理を業者へ委託していた。
- ⑤ 給与水は井戸水（未消毒）を使用していた。

４ 野鳥・害獣対策

- ① 発生鶏舎は、平飼いのセミウインドレス鶏舎であり、通気口に金網（直径約３ｃｍ）が設置されていたが、その外側に防鳥ネット等は設置されていなかった。
- ② 発生鶏舎内では、ネズミの侵入跡と思われる穴が壁面及び天井に多数認められ、管理者によると、鶏舎内でネズミをみかけることがあるとのことであった。
- ③ 管理者によれば、発生農場付近ではスズメ等の小型鳥類やカラスは少なく、鶏舎内でそれらを見かけたことはないとのことであった。

５ 死亡鶏の取扱い

死亡鶏は、各鶏舎毎に一時保管し、管理者が預託元に直接運んでいた。